

外国人と日本人によるシェアハウス 普通を学び、みんなが安心できる暮らしを

The house to prepare for life in Japan

相原竜平¹⁾, 岩間大¹⁾, 梶原哲汰¹⁾, 人見京花¹⁾, 山崎太雅¹⁾
指導教員 和田光平¹⁾,

1) 中央大学 経済学部 和田ゼミ

キーワード: 普通

1. 八王子市の現状と取り組み

八王子市内の外国人人口は平成 12 年には 5672 人、平成 22 年には 9162 人、平成 29 年には 12219 人とどんどん増えていっていることがわかります。また、その中の永住者の人数も平成 24 年では 2949 人、平成 29 年では 3598 人と増えていっています。八王子市はこれ(外国人市民の増加)に対し、日本語教室を開催したり、外国人の地域活動への参加機会の拡大に取り組んだり、多文化共生のまちづくりを推進しています。しかし、実際に日本語教室は日時が合わず参加できないという外国人がいたり、自治会への加入率は日本人の半分程度なのが現状です。

2. 市民の意見

外国人市民の困っていることに関するアンケートでは、「医療や保険に関しての制度がわからない」、「日本語がわからない」、「日本の生活の決まりがわからない」、「マナーがわからない」、「災害時どうしたらいいかわからない」という意見が出ました。それに対し、日本人に対する外国人が増えることについてどう思うかというアンケートでは、「生活習慣の違いにより、生活環境が悪くならないか心配」という意見があり、実際どんなことに困ったかというアンケートでも「ごみの出し方など生活の習慣、ルールを理解してもらえない」という意見がありました。外国人は悪意なく、むしろマナーに関して知りたいがわからなく、マナーが悪いことに関して日本人は困っているということになります。

3. 現状のまとめと課題

外国人人口の増加に対し、八王子市は多文化共生のまちづくりを推進しているが、未だ不十分で外国人、日本人両方に困っていることがあるといえます。また、外国人は日本人の「普通」を知りたく、日本人からしたらその「普通」を壊してほしくないようです。ここでいう「普通」とは、日本人なら子供のころから生活していくうちに培われていく常識や習慣を示します。

4. 提案

ここでわたしたちが提案したいのは「外国人と日本人のシェアハウス」です。一緒に暮らし、買い物やゴミ出し、買い物などをともに行うことで、言葉や文字では伝わりづらい日本人のマナーや習慣、つまり、「普通」を外国人に学んでいただくと考えています。

日本に住みたい、住んでいるが不安のある外国人と、国際交流に興味のある日本人を 7 人 7 人程度で生活させます。個人部屋はベッドがあるくらいの、基本的には就寝のために過ごす場所にし、大半の時間は共有のリビングルームで過ごしてもらうことにより、一緒にいる時間を増やそうと考えています。一緒にいるため、外国人は好きな時にわからない日本語や医療、制度について聞くことができます。また、7 人程度の日本人がいるため、日本の生活に関して偏った理解にならないとも考えています。避難訓練や自治会への登録などをシェアハウス全体で行うことにより、ややこしそうな地域活動への壁のようなものを感じずに、参加へ

とつなげられるとも思っています。これらにより、外国人側には、①日本語が学べる②普通を学べる③コミュニティが形成できるという価値が提供でき、日本人側には①国際交流ができる②コミュニティが形成できるという価値が提供できると思っています。さらには退居後には外国人への住居の紹介等も出きたらいいとも考えています。